

平成27年度第2回八王子市多文化共生推進評議会議事要点録

- 【白時】 平成28年2月5日(金) 18:30~20:30
- 【場所】 八王子スクエアビル11階 学生交流室・国際交流室
- 【出席者】 評議員
森茂評議員(座長)、岡添評議員、シュレスタ評議員、館山評議員、
谷川評議員、児野評議員、張評議員、マダウラ評議員、関評議員、
吉本評議員、渡辺評議員
- 事務局
市民活動推進部 大野部長、多文化共生推進課 浅岡課長、同課
櫻井主査、阿部主任、石川主任、柳沢主任
- 【欠席者】 平野評議員
- 【公開・非公開の別】 公開
- 【傍聴人】 なし
- 【配付資料】 評議会次第
資料1 多文化共生推進プラン取組状況(総括表)
資料2 多文化共生推進プラン取組状況(基礎データ)
資料3 外国人に関するアンケートについて

1 開会

- ・配付資料の確認

2 報告事項

事務局

- ・来年度には、新たな評議員を選任する予定であるが、詳細は検討中である。
再度評議員の就任を依頼する方がいるかもしれないが、その際にはよろしく
お願いしたい。
- ・新たな海外友好交流都市の検討開始について説明。

事務局

- ・2月23日に実施予定の多文化共生講演会について説明。
- ・2月21日に実施予定の外国人のための無料専門家相談会について説明。児野

ひょうぎいん せつめい
評議員より追加説明。

- がいこくじん ぼうさいくんれん たちかわぼうさいかん せつめい
・外国人のための防災訓練（立川防災館）について説明。

ざちよう
座長

- ただいまのじむきよく ほうこく たい なに しつもん
・ただいまの事務局からの報告に対して、何か質問はあるか？

ひょうぎいん
評議員

- あら ゆうこうこうりゅう とし どいつ ぶりーつえんし あめりか・
ぽーとらんどし せつめい はちおうじ こくさいちえろこんくーるをこれ
までに3回実施している。これに関連して、くろすぜんしちょう ころ い たり あ・
ふいれんつえしちょう あいだ たが めいよしちょう こうりゅう はなし
フィレンツェ市長との間で互いに名誉市長になり、交流しようという話が
あったが、この件はけん げんざい
あったが、この件は現在、どうなっているのか。

じむきよく
事務局

- けん げんざい うご
・その件については、現在は動いていない。
- あら ゆうこうこうりゅう とし ぐたいてき けんとう じょうきよう
・新たな友好交流都市についての具体的な検討はこれからという状況である。

じむきよく
事務局

- ぶりーつえん、ぽーとらんどのりようし しぎかい めいしやう
・ヴリーツェン、ポートランドの両市とも市議会で名称があがったというだけ
で、まだけつていじこう
ではない。どの都市とゆうこうこうりゅうきやうてい ていけつ
今後の検討事項である。

ひょうぎいん
評議員

- はちおうじ かいがいゆうこうこうりゅう とし あじ、あきんりんこく あめりか やよーろっぱ
・八王子の海外友好交流都市は、アジア近隣国なので、アメリカやヨーロッパ
は良いかもしれない。ぶりーつえん は、べるりん きんこう とし にほん からとお
いが、こえぬまはくし とのつながりもあるので、すば おも
い、肥沼博士とのつながりもあるので、素晴らしいと思う。

ざちよう
座長

- さき せつめい とし とし きやうてい むす
・先ほど説明のあった2都市のうち1都市と協定を結ぶのか。

じむきよく
事務局

- ていあん しぎかい ほうこく じっさい せんてい
・そういった提案が市議会からあったという報告であり、実際の選定にあたっ
ては、しみん いけん うかが けんとう
ては、市民の意見を伺いながら検討していきたい。

ひょうぎいん
評議員

- げんざい ゆうこうこうりゅう とし とし ゆうこうこうりゅうかんけい けいぞく あら とし ふ
・現在の友好交流都市3都市との友好交流関係は継続し、新たに1都市増える
ということの良いのか。

事務局

- ・お見込みのとおり。4つ目の海外友好交流都市ということになる。

事務局

- ・市制100周年に向けて、新たに海外友好交流都市を選定していこうという動き。先ほどから、何度か肥沼博士について話が出ているが、知らない方のために簡単に説明する。本市中町出身の医師で、父親も医師であった。第2次世界大戦前に放射線について学ぶため、ドイツに留学した。戦後、ポーランドに近いウリーツェンで発疹チフスが流行しており、ソ連よりその治療にあたってほしいと依頼され、現地で献身的に治療にあたり、亡くなった。当時は東ドイツの時代だったので、日本では消息が分からなかった。ベルリンの壁崩壊の後にドイツから、肥沼博士の遺族を探しているという新聞報道があり、遺族の方々も肥沼博士の消息をやっと知ることができたという背景がある。ウリーツェンでは、道徳の教科書に載るほど大切にしてくれていて、肥沼杯というスポーツ大会も開催されている。

評議員

- ・ポーランドは、八王子市と何かつながりがあるのか？

事務局

- ・今のところは特に無い。全米一住みたい街と言われていて、まちづくりが参考になるということで、市議会で提案があった。
- ・友好交流都市としての検討はこれからであるが、市民レベルの交流は熱心な動きがある。来る3月8日に肥沼博士の没後70年を迎えるにあたり、民間団体が千羽鶴を送るという動きが進んでいる。こういった縁があると、交流が長続きするのではないかと考えられる。

3 たぶん かきょうせい しさく ぜんぱん いけんこうかん 多文化共生施策全般について(意見交換)

がいこくじん かん しみん あんけーと 外国人に関する市民アンケートについて

ざちょう
座長

- ・ 来年度、市民を対象としたアンケートを実施することを事務局が提案している。事務局より説明願いたい。

じむきょく
事務局

- ・ 資料3「外国人に関するアンケートについて」を基に説明。

ざちょう
座長

- ・ 調査方法は郵送になるのか。
- ・ 無作為抽出するのか。

じむきょく
事務局

- ・ 外国人市民には、郵送で調査票を発送する。また、属性に偏りが出ないよう、無作為抽出をする。

ざちょう
座長

- ・ 外国人市民については、名簿のようなものがあるのか。

じむきょく
事務局

- ・ 住民基本台帳から抽出する。日本人についても同様の方法とする。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 平成23年度当時の回収率はどの程度だったか。

じむきょく
事務局

- ・ 調査方法によって異なってくるが、外国人市民は対面で実施したため、100%となっている。外国人留学生は90人中46人の回答となっている。日本人市民は、町会の協力を得て実施し、約40%となっている。

ひょうぎいん
評議員

- ・ なぜ外国人市民は100%なのか。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 前回は、イベントに来ていた人に、対面で実施したため。

事務局

- 町会については、八王子国際協会（以下「協会」という。）のイベントに協力してくれた町会や外国人居住者の多い町会に依頼して実施したが、偏りが出てしまう。そのため、来年度の調査では、全体から無作為抽出したい。

座長

- 内容について何か意見はあるか。

評議員

- 外国人向けアンケートの問9について、選択肢に書いてあることは実現すれば良いことであるが、外部から何かしてもらうことばかりが挙げられている。外国人が海外に住むことは決心が必要だ。してもらうことばかりを期待するのではなく、内面が変わらなければならない。外国人からの積極的な意見を問う選択肢があった方が良いのではないか。
- 子どもが学校に入ると、日本人でも外国人でも一からいろいろと学ばなければならず、困ることは同じだ。外国人であればなおさら困るかもしれない。学校の行事やPTAに積極的に参加するという選択肢があっても良いと思う。参加することで学校のことがよくわかる。参加する意欲があっても手紙が読めない人がいて、私はこの人のために翻訳などをした。日本語が理解できれば理想的だが、そうでない人でも安全運動や草むしりなどの活動はできる。こういった活動に参加すれば、日本人の親とも親しくなれるし、自分の子どもの様子を積極的に知ることができる。

座長

- 問9の「必要であると思うこと」の選択肢に入れられないかということによいか。

評議員

- 問9の選択肢のことである。
- 自らの体験から、そういった項目があった方が良く感じる。
- 問10、問11は、それぞれの問の選択肢5が対応関係にあるが、つながりが分かりにくい。問10の選択肢5では「医療に関する相談窓口がない」となっている。

いるが、^{いまげんざいまどぐち}今現在窓口はある。問11の^{せいせんたくし}選択肢5で「^{たげんご}多言語に^{たいあう}対応する^{そうだんまどぐち}相談窓口の^{せっち}設置が^{ひつよう}必要である」という^{せいせんたくし}選択肢があるので、^みそこまで見ればそのつながりがわかる。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 問9の^{せいせんたくし}選択肢を1から見ていくと、すべて^う受け身の^{せいせんたくし}選択肢になっている。
「^{がいこくじん}外国人が～してほしい」、という^{ないよう}内容が^{ちゅうしん}中心となっている。今の^{いま}議論は^{がいこくじん}外国人が^{せっきよくてき}積極的に^{さんか}参加する^{いし}意思を持とうということが^い言いたかったのだと思^{おも}う。^{さんか}参加できる^{かんきよう}環境を^{ととの}整えてほしいといった^{せいせんたくし}選択肢が必要だと思^{かん}じる。

ひょうぎいん
評議員

- ・ この^{くに}国に住^すむことを^き決めたのだから、^{じぶん}自分たちの^{ぶんか}文化を^{たいせつ}大切にすることは^{じゅうよう}重要であるが、^{にほん}日本の^{ぶんか}文化に^あ合わせる^{どりよく}努力も^{ひつよう}必要だと思^{おも}う。

ざちょう
座長

- ・ ^{しえん}支援を^{もと}求める^と問いかけになっているが、^{がいこくじん}外国人が^{しゅたいてき}主体的に^と取り組むことの^{ひつようせい}必要性も^も盛り込^こんだ方が^{ほう}良いということか。

じむきよく
事務局

- ・ 今回^{こんかい}提示^{ていじ}しているものは、^{だい}たたき台である。

ざちょう
座長

- ・ ^{さき}先ほど^{じむきよく}事務局から^{せつめい}説明があつたとおり、^{へいせい}平成23年度^{ねんど}との^{ひかく}比較のため、^{とうじ}当時の^{せつもん}設問を^{さんこう}参考にする^{ひつよう}必要があるので、ある程度^{ていど}同じ^{こうもく}項目がある方が^{ほう}望ましい。

ひょうぎいん
評議員

- ・ ^{ちようさひよう}調査票は^{ゆうそう}郵送するということだが、^{えいやく}英訳なども^{おく}つけて送^{おく}るのか。

じむきよく
事務局

- ・ ^{たげんご}多言語（^{えいご}英語、^{ちゅうごくご}中国語、^{かんこく}韓国・^{ちようせんご}朝鮮語、^{すぺいんご}スペイン語）で^{ちようさひよう}調査票を^{さくせい}作成する^{よてい}予定だが、^う受け取る^と人が^{ひと}どの^{げんご}言語に^{がいとう}該当するかが^{はっそうだんかい}発送段階ではわからないので、^{たいあう}対応^{ほうほう}方法は^{げんざいけんとう}現在検討しているところだ。^{はっそう}発送する^{さい}際に、^{たげんご}「多言語で^{ちようさひよう}調査票を^{ようい}用意している」という一文を^{いちぶん}書いておくか、それとも^{ほか}他の^{ほうほう}方法^とを採^{むすか}るか、^{ぶぶん}難しい部分である。

ひょうぎいん
評議員

- ・ ^{へいせい}平成23年度は^{ねんど}どのように^{たいあう}対応したのか。

事務局

- ・やはり今回挙げた4言語で調査票を作成した。

評議員

- ・すべての言語を同封して送ったのか。

評議員

- ・外国語の調査票を送付した人もいたが、日本語教室に半分以上依頼して、教員と一緒に回答を書くというケースがほとんどだった。日本語の調査票を発送し、受け取った人で、内容がわかった人はあまりいなかったのではな
いか。

事務局

- ・外国人に対しては、日本語教室の生徒といった人たちを対象としていたた
め、偏りが出たことが考えられる。そのため、今度の調査は郵送で行いた
いと考えている。

評議員

- ・発送段階で、国籍にあわせて送るのは難しいことなのか。

事務局

- ・フィリピンのように、英語ができる方もいれば、タガログ語でないと理解で
きない方もいるなど、同じ国でも言語が違うことがあるので難しい。例えば、
インターネット上にそれぞれの言語ごとの調査票がダウンロードできるの
で、そちらに誘導するといった方法なども考えているが、難しい面もある
と感じている。しかし、日本語がわからない方にも回答してもらわないと良
いアンケート調査にならないので、何らかの対応は必要であると考えている。

評議員

- ・多言語の調査票を一度に送ってしまうことはできないのか。

事務局

- ・発送枚数が増えてしまう。

事務局

- ・そういった方法も検討事項のひとつとしたい。やれるならば、一斉にすべて
の言語を送った方が良い。

ひょうぎいん
評議員

- ・多言語で並んでいるのを見ると、私はやはり韓国語がいちばん目につく。そういう意味では、すべての言語を一度に送った方が良いと思う。

ひょうぎいん
評議員

- ・知り合いのスリランカ人にこの調査票に回答してもらったところ、うんざりした様子だった。ふりがなが振ってあるので、読むことはできたが「あてはまる」、「教育」、「医療」などの意味が分からなかった。そういったときに「教育」には「Education」、「医療」には「Medical Care」などを書いてあげたら、回答することができた。そのように、少し英語を交えて日本語の調査票を作成すると、やりやすいのではないか。

ひょうぎいん
評議員

- ・このアンケートに書いてある日本語が分かる人であれば、回答してもらう必要はあまりない。だが、日本語がよくわからない人では、この調査票を理解するだけで大変だ。ほとんど回収できないと思う。ぱっと見て、簡単であればやってみようと思うかもしれないが、今の案ではやってみようとも思わない。そうすると、前回のアンケートのように、日本語教室に頼るようなことになってしまうかもしれない。調査票の作り方は工夫をしてほしい。

ひょうぎいん
評議員

- ・やさしい日本語で作ってほしい。今の案は修飾が多く、「おたずねします」など、難しい表現が多い。敬語や謙譲語はどちらかと言えば無い方がよい。「私は～ついて...です。」程度の短い文章で作成すべき。

ひょうぎいん
評議員

- ・「学校からの発送物の連絡内容がわからない」という表現では「発送物」や「内容」といった単語で引っかかってしまう。

ひょうぎいん
評議員

- ・「連絡内容」も「連絡」はわかるが「内容」はわからない。

ひょうぎいん
評議員

- ・外国人のための無料相談会のチラシのように、多言語にしなければ目にもとまらずに捨てられてしまう。絵を入れる、もっとわかりやすくするなど工夫

をしないと回収率は非常に低くなってしまふ。

ひょうぎいん
評議員

- ・教育の分野であれば、学校の絵を入れるなどの工夫があるとわかりやすくなる。

ひょうぎいん
評議員

- ・文章が長いし、項目が多すぎる。

ひょうぎいん
評議員

- ・例えば、問8の選択肢1に「発送する」という言葉が必要かどうか。単に「連絡」で良いと思うし、「困っていることを教えてください」ではなく「困っていることは何ですか」といった表現で良いと思う。
- ・学校の子どもの現状についての設問が問8にあって、問9で今後必要なことを尋ねるのであれば、問9はむしろ子どもに対するケアについて尋ねていて、視点が外れているように感じる。問9はもう少し大きな視点で項目を作る必要がある。

じむきよく
事務局

- ・前回実施時には、市としてやさしい日本語という考え方を持っていなかったと思う。今回の調査では、やさしい日本語を取り入れたい。
- ・すべての言語に対応することは難しいが、なるべく多くの言語に対応できるようにしたい。
- ・問8、9のつながりを考え直した方がよいということについても、秋に調査を実施するのであれば、構成員は変わっているかもしれないが、見直しをしたうえで次回の評議会で意見を求めたい。

ざちょう
座長

- ・これまで出た意見は、事務局でなるべく取り入れてもらい、たたき台は、日本語教育の専門家などに見てもらうと良いのではないかな。

ひょうぎいん
評議員

- ・外国人市民向けの設問に「今後必要であると思うことを教えてください」とあるのは、今後行政としてどのようなサービスを拡充していかなければならないかということを知りたいので設問を設定しているのだと思うが、その

ような視点から見ると、既にわかっているようなことが選択肢に挙げられている。書かれていないようなニーズを拾えるような設問があると良いのではないか。あまり具体的な考えはないが、オープンな質問形式にした方が今つかめていないニーズを知ることができるのではないか。

事務局

- ・「その他」を自由記載にするという方法もある。

評議員

- ・その場合に、書ける能力があるかという問題がある。

座長

- ・母語で書いてもらっても良いのではないか。

評議員

- ・母語で書かれたアンケートがきたら、母語で回答を書くと思う。

評議員

- ・アンケートをまとめて、その結果は優先順位をつけて実施するのか、もしくは、すべて実現するのか。

事務局

- ・すべてを実施するのは難しいと思う。平成29年度の多文化共生推進プラン（以下「プラン」という。）の見直しの参考として使いたいと考えている。

事務局

- ・プランの見直しに使用するが、アンケートで出た意見は担当所管に伝えなければならない。そのうえで、プランを見直す。その際には、優先順位をつけることになる。

座長

- ・外国人市民の定義は、ルーツは海外にあるが帰化して日本国籍を有している人もいるが、国籍で判断するということで良いのか。

事務局

- ・住民登録情報から抽出するとなると、国籍で判断することになる。市民課に確認しなければならないが、帰化している人を含めて抽出することとは難しいだろう。

ひょうぎいん
評議員

- ・国籍で判断するとなると、在日3世なども対象になるということか。こういった人がアンケートを受け取ったら、何を言ってるんだ、馬鹿にするなということになる可能性もある。

ひょうぎいん
評議員

- ・アンケートの結果は公開されるのか。

じむきょく
事務局

- ・公開する。

ざちょう
座長

- ・日本人を対象としたアンケートについても意見があれば出してほしい。

ひょうぎいん
評議員

- ・市民は子どもから大人までを対象とするのか。

じむきょく
事務局

- ・おそらく20歳以上となると思う。

ひょうぎいん
評議員

- ・今度、このアンケートを娘にやらせてみたい。子どものクラスにも様々な国籍の子どもが増えているので、こういった意識を持っているのか興味がある。

ひょうぎいん
評議員

- ・平成23年度のアンケート調査結果はどのように活かされているのか。

じむきょく
事務局

- ・平成23年度のアンケート調査結果は、プランの後半、各事業の部分に反映されている。すべてに取り組んでいるわけではないが、市及び協会は、それに基づいて事業を行っている。

ひょうぎいん
評議員

- ・日本人向けのアンケートはどういう人を対象とするのかが非常に難しい。こういったことを目的とするかによって変わってくると思う。「国際化を推進することにしたのでどう思うか」と尋ねるのか「外国人が近隣に住むことをどう思うか」といった感情的な部分について尋ねるのか。どういうことを

主体に問うのかで違う。ほとんどの人は、国際化にほとんど興味がない。
郵送で不特定多数の人にアンケートを送っても、回答率は極めて低いものにな
ると思われる。そういった、関心のない人の意見を聞きたいのか、ある
程度関心がある人に対して、「八王子は多文化共生のまちづくり」を推進し
ていくことにしたが、それについてどう思うかと尋ねるアンケートとするの
か、こういった点も考える必要がある。

座長

- ・アンケートを配るときに、その目的などを書いた前文はつくのか。

事務局

- ・作成する予定である。前回実施した際も前文を作成している。

評議員

- ・市の広報に多文化共生の方針や活動について掲載しているのか。多文化共生に興味のある人は、自分でインターネットを使って調べるかもしれないが、そうでない人に対しては、市の広報にそういったことを掲載すれば、多少なりとも意識を持ってもらうことができ、アンケートの回収率も少しは高くなるのではないかと。一度、プランについて、市の広報に掲載してはどうか。私の知っている範囲では、広報に多文化共生についての記事が過去に掲載されたという記憶がない。

事務局

- ・プラン発行時（平成25年3月）には、広報の巻頭特集として3ページ掲載した。しかし、23年度のアンケート時には、おっしゃるような周知はしていない。

評議員

- ・アンケートを実施する前に広報で多文化共生について周知した方が良いと思う。

評議員

- ・日本人向けのアンケートについて、プラン作成時に多文化共生推進の意識を向上させなければならないという議論があった。日本人向けアンケートは、そのことを定期的に捉える機会となれば良いと思う。その意味で言うと、

平成23年度に実施したアンケートの項目を大きく変更するのはどうかと思いつつも、この項目はどうなんだろうと思う部分もあり、悩ましい。位置づけとしては、外国人市民の方といっしょに共生していくことが、身近に捉えられる内容になれば良い。

座長

- ・ほかに何か意見はあるか。

評議員

- ・項目について、無くしてしまうと経年変化をとらえられなくなるので、追加についていくつか発言したい。後で分析するときの観点でみると、身の回りに外国人市民がいる、最近外国人市民に会ったことがあるといった、接触の状況についての項目を1の属性に関する設問に追加できれば、他の設問との相関関係を分析できると思う。
- ・また、問8について外国人市民に対してどのような働きかけが必要であるかという問いについて、せっかく何がしてあげられるか考えられる設問なのだから、もう少し「何が困っていると思いますか」といった、「何かをしてあげる」ではなく、外国人市民の目線に立つような設問を入れると良い。ひょっとしたら通りすがりの外国人が何か困っているかもしれないと考えることへの意識づけとなる。単に現状を調査するだけでなく、アンケートを通じて、外国人市民に対して気を付けなければならない、気を付けた方が良いといったことの啓発ツールとなるような設問を追加するとよいのではないか。

座長

- ・他はよろしいでしょうか。それでは次に進みます。

多文化共生推進プラン取組状況の様式改訂について

- ・プランの取組み状況の様式の改定と前回の評議員会において、各評議員から出た意見について事務局から説明をお願いしたい。

事務局

- ・資料1、2を基に、多文化共生推進プラン取組状況の様式改訂について説明。

ざちょう
座長

- ・これは次回の評議会から使うものか。

じむきょく
事務局

- ・次回、平成28年度第1回評議会から、今年度実施している事業をこの様式に当てはめて使用する予定である。

ひょうぎいん
評議員

- ・目標と重点的な取組みは、それぞれ別に関書く必要はなく目標だけで良いように思える。個別事業について見ると、重点的な取組みに書かれている内容でないものが見られる。個別事業をホームページの作成、パンフレットの配布等の項目で分類すると良いと思う。個別事業と重点的な取組みとの対応関係を工夫した方がよいのではないか。

ひょうぎいん
評議員

- ・資料1を見ると、目標と重点的な取組みはほとんど同じである。また、資料1には、資料2に書かれている課題が書いていない。「現在の状況」、「今後の方針」に対して「課題」があることで、次の展開について考えることができる。このため、資料1には、「課題」の項目を追加すべきだ。目標と重点的な取組みの間にレベルの違いがほとんどないので、両者をひとつの項目にしてしまって、課題の欄を設けてほしい。今後の方針は、当初の方針を変更していくことで、そこには意思が入る。それが分かるようにしないと、進捗状況の分析にならない。
- ・資料1に総合評価があるが、何に対して評価をしているのかイメージがわからない。評価とは、現時点でどの程度まで取組みが進んでいるかということに対して、AとかBとつけるものだ。つまり、経緯が分かるようにして評価しなければならない。取組みの次にいきなり評価があると頭がついてこない。評価の項目は、現在の状況があって、課題の項目をそのあとに入れ、最後に今後の方針とした方が現状の評価としてわかりやすい。項目名も「今後の方針」より「今後の解決策」が良い。

ひょうぎいん
評議員

- ・目標の下にいくつか取組みがあって、その中に重点的な取組みがあるもの

だと考えると、似たものにはなるが、二つ出す意味はある。総合評価は、目標に対して行うものであるので、重点的でない取り組みも含めて評価すべきであるのに、重点的な取り組みだけ抜き出して総合評価をしてしまうと、書いてある内容が小さいのに総合評価の対象範囲が大きくなってしまい、誤解を招くのではないかと。もし、資料1のような概要版を評議会の資料とするならば、重点的な取り組みだけを抜き出すよりも、もう少しまとめて全体を書かないと、なぜこの総合評価となるのか誤解されてしまう恐れがある。

事務局

- ・目標に対して今どこにいるのかというのが非常に重要だと思っている。具体的な数字がないものが特に分かりにくい。要は今の段階にいるのかを総合評価として出したいという思いがある。そういった視点で今後まとめられないか。評価というものをどうしたらよいのか、現在は手探りである。そのため、我々の評価に対して、評議員の皆様からのご意見をいただくことは当然のことであると考えている。

評議員

- ・目標の達成時期は特に決めていないのか。

事務局

- ・プランについては、平成25年度からの当初5年間の共通の目標達成時期である。

座長

- ・各評議員から様々な意見が出た。目標と重点的な取り組みは同じような表現になっているので、この部分をもう少し工夫する。現在、教育の分野では、評価に結びつけていくため、もっと具体的なアウトカムを書いて評価することが多い。目に見える形でアウトカムを書けば、それができているかどうか分かるので、そのようにしても良いのではないかと。総合評価の欄は、現状を踏まえて書けるように後ろに持ってくる。課題を書いてその後ろに評価ができるという意見もあった。事務局には、そのように考えてほしい。資料1については、重点的な取り組みを中心とした取り組み状況の表をもう一度提案してもらおうということによろしいか。

事務局

- ・ 前回の評議会での各評議員からの意見についての現状を説明。

座長

- ・ 我々が議論してきたことが少しずつ実現されてきていることが感じられた。
今回の評議会が最後となるので、この2年間議論してきたことなどの感想も含めて、全員から一言ずつ意見を伺いたい。

評議員

- ・ 私は、純粋な日本人で、多文化共生を進める団体のトップであるけれども、この評議会に参加したことにより、いろいろな国籍の方と議論し、皆さんから聞く話は非常に有意義だし、今更ながら納得する場面が多々あった。この評議会での経験は本当に勉強になった。この経験を協会の事業にもっと活かしたいし、評議員の皆さんには、今後も協会の事業にアドバイスをいただくなど、折に触れてご協力いただきたいと思います。この評議会の経過も気になる。今後の動きは市のホームページで見られるのか。

事務局

- ・ ホームページで公開していく。

評議員

- ・ 今後も経過を追っていきたい。

評議員

- ・ 外国人が増える一方である。いかに対応していくのか、日本人は、外国人にどう声をかけたら良いか、学校などにも今後も課題はたくさんある。しかし、外国人だから、何でもかんでも日本人に「やってくれ」とお願いするだけでなく、自らも努力していく必要があると感じた。日本語ができる人もそうでない人もいる。日本人だけを頼りにしていたら、外国人は苦しみ一方になる。何でもかんでも日本人がやってくれることを待っていたらいけないと感じた。

評議員

- ・ プラン作成時から参加していたが、今回の評議会でも実際に作ったプランが動いていることがわかって、参加できて良かったと感じている。自分自身も外国にいたときに、自分から馴染む努力はしたが、声をかけてもらえるとう

れしかった。プランでは、我々日本人市民が、外国人市民に声をかけるようになるというのも主眼にあると思うので、外国人市民を支援するということも大切であるが、日本人市民の目線がどう変わるか、引き続き議論が深まっていくことを期待している。

ひょうぎいん 評議員

- ・「外国人市民」という言葉がとても好きで、公募評議員に応募したのもその言葉があったから。「外国人」と言われることと、「外国人市民」と言われることには違いがあると思える。アンケートで「外国人市民についてどう思いますか」と聞かれるのと「外国人についてどう思いますか」と聞かれるのでは印象がとても違う。「外国人」というとまったく別の人という壁がある印象だが、「外国人市民」と言われると、外国人だが一緒にの市民なんだと感じる。この言葉を使い始めて、それが市民レベルまで広がって行って、私の娘も学校でいじめに遭ったりすることがないように、市民レベルで「外国人市民」もみんな一緒にんだという意識が広がれば良いと評議会を通じて思っていた。

ひょうぎいん 評議員

- ・外国人市民から日本人市民になった自分から見ると、八王子は外国人にとって住みやすい環境ができてきたのだと思う。今後も自分のできる範囲で多文化共生を進めていきたい。

ひょうぎいん 評議員

- ・プランを基に、外国人相談や日本語教室の対応などで目の前にいる人に対して毎日走っている状況だが、プランに関わることで、全体的な形や現実外国人市民に対応したことがない人などいろいろな立場の人の意見を感じることができた。ただひたすら走っていると、自分のしていることが良いのか、どうなっていくのか分からなくなる。評議会に参加したことはとても良い機会だった。

ひょうぎいん 評議員

- ・先ほどの八王子駅南口総合事務所の事例などを聞いて、八王子の多文化共生など、やってきたことが進んでいると実感した。10数年前に日本に来た

ばかりの時に、上の子は「あいうえお」から勉強を始めた。日本に来たばかりの外国人市民がどうすれば様々な制度を利用できるのか、分かるようになれば良い。日本に来たばかりの人が市役所に来て、何か困ったら多文化共生推進課に行ってくださいという、そういった宣伝があれば良いと思う。

ひょうぎいん 評議員

- ・ 20年前に市の広報を韓国語に翻訳するボランティアをしていた。市の広報のうち、外国人に必要なと思われる部分を翻訳していた。昔からの草の根の市民活動が今の形につながっていると思う。広報の翻訳は4～5時間もかけてやっていた、仕事もあり、子どもが赤ちゃんで、ほとんど徹夜でやっていて、翌日も仕事があるのになんでこんなことをボランティアでやっているのかと思ったこともある。しかし、やっと声が届いて多言語で行政の情報が出るようになって、ずいぶん良くなったのかなと思っている。外国人として引っ越してきて、最初に市役所に行く、そのときにたくさん説明資料をもらう。そのときの資料が多言語でもっと充実して、分かり易くなるのが第一歩。それから学校や保育園などの手紙などがある。同じ学校に同じ国の人がいれば互いに情報交換できるが、それがなくても何らかの形で手紙などがある程度分かる環境になれば良い。行政が出している情報のほとんどが多言語化されることを願う。
- ・ 多言語ホームページのアクセス件数など数値で分かりやすくなれば、これからの課題がより見やすくなり、漠然と「これをやらなければ」ではなく、結果を可視化していけば取り組む事業の内容も少しずつ具体化していきやすいのではないかな。
- ・ 個人的に昨年より町会長を受けていて、連合町会の会議などに出席すると、日本人の高齢者ばかりの中で「えらい」と言われる。それも差別じゃないかと感じることもある。みんな男性の中に、女性がいるということに違和感があるのだろうか。日本の社会、特に町会などは古い考え方を持っている。私がかかなり変えている。手料理を作ってくるような町会だが、それをやらなくなった。男性もばりばり働かせる。日本人が町会長をやっていたらなかなか変えられない。とても大変で、日本人はなんでこんな大変な

ことをボランティアでよくやっていると**おも**いながらやっている。そんな大変なことをやっていたら、**だれ**もやらなくなってしまう。古いものがそのまま**つづ**いていて、**だれ**も意見を**いけん**あげない。**わたし**が意見を**だ**出すと、**だれ**も文句を**い**言わない。
 日本人は、頼まれたら**じゅうじゆん**順に役目を果たす。**かんこく**韓国では、こんなことはただでは**だれ**もやらない。**かんこく**韓国にも町会**ちょうかい**はあるが、**かね**お金をもらってやっている。そうでなければ、**こうほう**広報などは**だれ**も回してくれない。**にほん**日本の町会**ちょうかい**では、**まいにち**毎日のようにあらゆるところから**いらい**依頼がある。これらは**かんぜん**完全に行**ぎょうせい**政の仕事なのに、ただ**ばたら**働きでみんな**う**受けており、とても**ぎもん**疑問を感じながらやっている。**むかし**昔の**こと**をつなげていくのは**よ**良い部分もあるが、**にほんじん**日本人であれ**がいこくじん**外国人であれ、そんなに時間**ひと**がある人がいない。町会**ちょうかい**では**きようせい**強制的に**じゆんばん**順番で回ってくるから、みんな仕方なくやっている。**わたし**私も2年の任期**にんき**が終わるまでは**おも**と思ってやっている。**ねんかんぎようじ**年間行事をすべてこなすのがとても大変。任期**にんき**が終わったら、**つぎ**次の人が**わか**らなくなならないよう、**きろく**記録を**のこ**残している。**まいつき**毎月の定例会の**まえ**まは**じかん**5時間くらいかけて**しりよう**資料づくりをしている。その**とき**時に、**むかし**昔、**ほんやく**翻訳でも**じかん**5時間くらいかけてやっていた、よくやっていたものだ**おも**と思う。**がいこくじん**外国人の多い町会**ちょうかい**であれば、**にほん**日本の**でんとうぎようじ**伝統行事に参加**さんか**することで、**にほんじん**日本人が**よ**分からない良いところなどをたくさん**はっけん**発見できて良い**おも**と思う。PTAや学校でもそうだが、まず参加するとそこで、**おし**教えてくれたり、**ほんやく**翻訳、**つうやく**通訳をしてくれたり、**にほんじん**日本人は**せわ**世話好きなので、**なに**何か**くふう**工夫をしてくれる。それをうまく**まっちんぐ**マッチングしていければ、**たぶん**多文化**きようせい**共生が**すす**進んでいくのではない**おも**かと思う。町会**ちょうかい**は持ち家**も**の人に**い**役が回ってくる。**がいこくじん**外国人は**あぱーと**アパートに住**す**んでいる人**ひと**が多いので**あ**なかなか町会**ちょうかい**に**あし**足を運ぶことがない。どん**や**ど焼きなどは**やく**役が回**まわ**ってきて**はじ**初めて**さんか**参加したが、それは**にほんじん**日本人でも**おな**同じで、**やく**役が回**まわ**ってきて**はじ**初めて**さんか**参加した人**ひと**ばかりだった。そういう**てん**点では、**じゆんばん**順番で**やく**役が回**まわ**ってくることは**よ**良い**てん**点でもある。

ひょうぎいん 評議員

- ・**わたし**私は、**しみんひょうぎいん**市民評議員として**じぶん**自分の**いし**意思で**で**出てきた。**とうしょ**当初は、**し**市が**かたち**形だけ**ととの**整えるための**かつどう**活動なの**か**という**いんしやう**印象**も**を持っていた。しかし、**なんねん**何年かやってきて**すこ**少し**すす**進むようになってきたことが**わか**分かってきた。**はーど**ハードの**めん**面では、**ずいぶん**すすんで**い**進んでいる**いんしやう**印象**も**っている。**し**市や**きやうかい**協会が**すこ**少し**すす**進めていってくれ

ているということが評議会に参加してよく分かった。

- ・ もっと必要なのは、ハード面はもちろんとしてソフト面、日本人の意識をどのように変えていくかということに今後、もっと力を入れなければならない。先ほど「外国人市民」という言葉について意見があったが、ただ「外国人」というと今は難民や民泊などいろいろな問題がある。「外国人市民」と言った場合には、それらとは次元が異なる。町会長までやるような人もいる。
- ・ 私は先進国も途上国も海外の数力国に住んだ経験があるが、海外では向こうから手をさしのべてくれない。しかし、自分から動けば対応できるシステムがしっかりしている。日本人は非常に親切なので、あれもこれもと外国の人にいろいろと手をさしのべてくれるが、それにも限度がある。隣の人から何か聞かれたときにそれは市役所のどこへ行けば対応してくれるといった情報を与えられるようなネットワークのようなものが作れるようになれば良いと思う。私も初めて海外に住んだときの古い貸家がガス漏れをした。どうしたらよいか分からなかったが、隣人に聞いたところ、あれこれやってくれて解決したという経験がある。市の情報もたくさんあり、すべて頭に入っている訳ではないので、海外から来た人が困ったときには、助けてあげられる日本人を増やすことをソフトとしてどのように取り組むかが課題である。表面的なスポーツ交流をやりただけでなく、そういった助けられる輪を広げるかが大切なのではないかと考えている。

評議員

- ・ 今日のようなフリーに話せる時間がとれると、和やかに話せる。最後にこのような時間がとれたのはとても良かったと思う。評議員なので、内容の議論をすることは大切だが、このような時間も大切だと思った。最初、多文化共生推進課は、外国人市民への市としての対応という点では、様々な窓口がある市役所内の調整役として、とてつもなく大変なことを始めたなと思い、そういうことに評議員としてできることがあればと思い参加した。他の課は、外国人市民と直接対応しなければならないが、しかし、そのノウハウがたまっていない可能性がある。多文化共生推進課は、そのようななかで他の課と調整をしながら、しかも高い目標を持ってここまで来たことはすばらしい

と思う。

- ・外国に住んで戸惑うことがあると駆け込むところは大使館だが、大使館がしっかりしていない国の人もいるかもしれない。そういう意味で八王子市は、その役目を果たそうとしているのかなと思っている。素晴らしいことだと思う。これからも市民としてやれることがあればやっていきたいと、この2年間をおして思った。

座長

- ・今日のようなフリーディスカッションが毎回できれば良かったが、課題をこなすことで精一杯だった。今日は本音の話が聞けて良かった。
- ・八王子市の多文化共生に関わって8年ほどになる。2008年に総務省から各自治体でプランを作るように話がありてきた。しかし、未だにプランを策定していない市もある。そういう意味ではいろいろな課題はあるが、八王子はよくやっていると思う。
- ・先日、埼玉県のある高校がSGH（スーパーグローバルハイスクール）に指定され、新しい科目で「多文化共生」の授業が始まるので、生徒たちに講演をしてほしいと言われ、行ってきた。生徒たちに市内に住んでいる外国人の人数を調べるように言ったところ、市のホームページに情報が無く、市役所に行っても、外国人の人数は個人情報なので教えられないと言われた。そういう市もある。そういうなかで、八王子はある程度の対応ができてきているというのは、小さいながらもこの評議会のおかげではないかと思っている。
- ・マジョリティの日本人の意識をどうすれば良いのかという点では、大学で多文化教育の授業を持っているので、この会議の話や協会の話をしている。今年は2人のゼミ生が、八王子の多文化共生と日本語教育について卒論を書いた。その卒論がなかなか立派な内容だった。学生のうち1人は協会でもボランティアをした。学生の間でも少しずつ意識が育っている。こういった問題を知り、こういったことを課題にして教師になりたいという学生も増えている。
- ・多文化共生とは、外国から来てまだ日本になじめていない外国人にどのようなサポートをするかということと同時に、マジョリティの日本人の意識をどう

のように^か変えるかという^{してん たいせつ}視点も大切で、^{だいがく おし}大学で教えているのでこれからもこ
ういった^{かだい とく}課題に取り組んでいこうと思^{おも}っている。^{ねんかんみな}2年間皆さんと様々^{さまさま}な
^{でいす かっしょん}ディスカッションができて、^{ぶらん}プランという^{かたち}形になって、それが^{すこ}少しずつ^{じつげん}実現
していく^{かてい み}過程を見ることができてうれしく思^{おも}っている。

3 ^{へいかい}閉会